

—研究・実践のまとめ—

いばらき

令和 4（2022）年度



大阪府立茨木支援学校

はじめに

本校のめざす学校像は、「すべての人に包摂的且つ公正で質の高い教育を行う学校」です。2015年9月の国連サミットで採択されたSDGsの「4、質の高い教育をみんなに」、誰一人も取り残さない教育をめざすものです。

新型コロナウイルスの流行が始まって、4度目の冬が過ぎ、春を迎えようとしています。また、国際情勢も非常に不安定な状況です。令和3年1月に出了された中央教育審議会の答申「令和の日本型教育の構築をめざして」においては、そのような状況、将来の予測が困難な時代を生きる子どもたちに対してめざす教育の姿は「すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現とする」と示されました。また、現在、審議が進んでいる国や大阪府の次期教育振興基本計画においても、誰一人取り残されず、一人ひとりの可能性を最大限に引き出すことが計画策定にむけての方針の柱のひとつとなっています。

その、誰一人も取り残さない「すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現」にむけては、丁寧なそして的確な児童・生徒の実態把握が大切です。その実態把握を出発点にして、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、学習指導要領や、シラバスに基づいた授業実践、評価へ、そして改善へとつながります。しかし、個々に多様なニーズのある全ての児童生徒の可能性を引き出すことは、「言うは易し、行うは難し」ではないでしょうか。そこで、本校では、指標に基づいた実態把握を日々の指導・支援へ活かすことと、シラバス作成から評価までのつながりを意識した授業づくりを両輪として、実践研究を進めてきました。

今年度、令和4年度の本校、茨木支援学校の研究紀要は、Ⅰ.研究部 全体研修（授業づくり研修、授業実践報告）、Ⅱ. 自立活動支援部（「チェックリストを活用した実態把握」に基づく実践事例研究、）から成っています。Ⅰ. 研究部 全体研修では、学習指導要領に基づくシラバス作成から評価までの授業づくりの研修について報告しています。この研修は、昨年度に引き続き大阪府教育センターのパッケージ研修支援を活用し指導・助言をいただきながら行いました。「つながりが見える！わかる！～シラバス作成から評価まで 教科の視点で子どもたちの成長をとらえよう！～」をテーマに、授業づくりの進め方を、モデル授業をもとにひとつの単元・題材を通して検討を重ねてまとめました。実践研究を進める中で、どのようにすれば学習指導要領をふまえて、より実態に即した観点別の評価規準を設定できるのか、実態の幅が広い授業における評価規準、評価基準はどうすればよいのか等の課題がうきぼりになり、その課題解決にむけて取り組みました。

Ⅱ. 自立活動支援部の報告では、「チェックリストを活用した実態把握に基づく自立活動の実践事例研究」をまとめています。こちらも昨年度よりの継続研究です。チェックリストを活用した実態把握に基づいた適切な指導・支援がPDCAサイクルで取り組めるようになることをめざした事例研究を行いました。チェックリストから導きだされた課題群をもとに、自立活動の視点から仮説を立て、実践し、評価するまでのプロセスをまとめています。

まだまだ試行の段階ではありますが、ご一読いただき、ご高評いただければ幸いです。今後も、茨木支援学校では、教職員が力を結集させ「すべての子どもに絶え間ない支援の実践」を行い、一人ひとりの可能性と笑顔を輝かせていきたいと思ひます。

令和5年3月 校長 大峠 貴弘
准校長 天野 ちさと

目 次

○ はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 学校長・准校長

I. 研究部 令和4年度の全校研究について

1. 令和4年度 授業づくり研修の概要

2. 全体研修資料

(1) 全校研究①「評価規準ってどうやって立てるもの？

～基本的な評価規準の立て方の紹介～」

(2) 全校研究②「観点別学習状況の評価について」

(3) 全校研究③「シラバス（様式Ⅰ）の評価規準について」

3. 授業実践報告

(1) 小学部 ：国語科・算数科（ことばかず）「ちがいを感じよう」

(2) 高等部普通課程：保健体育科（体育）「球技」

4. まとめ

II. 自立活動支援部

「チェックリストを活用した実態把握」に基づく自立活動の実践事例研究

1. はじめに

2. 「チェックリストを活用した実態把握」の概要

3. 実践の流れ

4. 実践事例報告

(1) 中学部

(2) 高等部普通課程

5. おわりに